

地図講演会

『「日本」号の成立と「日本図」—自画像と他者像—』

国際日本文化研究センター 千田 稔教授

7月15日(土)、歴史地理学がご専門で、国際日本文化研究センターの千田稔教授より『「日本」号の成立と「日本図」—自画像と他者像—』と題してご講演いただきました。

講演は国号「日本」の成立という興味深いテーマから始まり、その成立が7世紀末と推定されるとした上で、明代まで中国が作製する地図には他者像としての日本を地図化することに関心がなかったことが紹介されました。次に、日本人が描く自画像としての「日本図」(いわゆる「行基図」)も自国の描写のみ追求していたことに対し、朝鮮半島(李氏朝鮮)では外交上の背景もあって、精密な東アジア図を作製していたという対比をお話いただきました。

また、称名寺所蔵(金沢文庫保管)日本図や拾芥抄大日本国図、南瞻部州大日本国正統図などの「行基図」資料を用いながら、「行基図」の原図は奈良時代に遡れるという説や「行基図」は蒙古襲来当時の神国の表現体として読めること、あるいは「大日本国図」は「大日如来の本国の図」という密教的な世界で解釈できることなど地図学史の面白さを解説されました。

さらに、西洋から見た他者像としての日本は16世紀までは不正確な形でしか表されなかったが、キリスト教の伝播を契機に、日本の海岸線に注意が向けられた地図が作製され、17世紀のブラウの世界図で比較的正確に表現されたこと、伊能忠敬もこの西洋諸国で作製された地図の存在を知らなかったはずはないであろうということで講演を閉じられました。

今回、地図に描かれている情報だけではなく、地図作製当時の時代背景や意図などにも目を向ける、地図の見方・読み方を各種の地図画像を織り交ぜながらご教示いただきました。



講師の千田稔先生

夏休みわくわく地図教室

「地図づくり 楽しかったよ！」

地図研究家 渡辺一夫先生

7月26日(水) 27日(木)、講師に地図研究家の渡辺一夫先生をお招きし、「わくわく地図教室」を開催しました。

26日の低学年の部では、先生の家から図書館までの道のりについて映像を交えながら勉強し、地図で確認していきました。その後、自分の家までの簡単な地図を描いたり、PCで地図作製ソフトを扱ったりと、楽しみながら地図づくりの基本を学びました。

27日の高学年・中学生の部では、先生が取材された国々の様子を、映像を交えながら学び、地球儀で確認していきました。その後、伊能忠敬のように、歩測で地図をつくる活動を行いました。方位磁石を手にし、自分の進む方向を確かめながら図書館内を歩き、地図化していきました。

また、次のような感想も、子どもたちから寄せられました。「にほんブログ村地図をかくのがたのしかったです。パソコンで地図をかくのもたのしかったです。」「いえまでの地図をかいたけど、じぶんですきなようにかけたのでたのしかったです。」「日本地図や地球ぎを見ていると、知らない場所を旅している気持ちになるので、楽しかった。」

この教室には、小学校1年生から中学3年生という、幅広い年齢の子どもたちが参加しました。どの子どもも熱心に活動し、新しいことを知る楽しさ、喜びを味わい、地図が大好きになったようです。

